

## 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル) 申請様式

① 学校名	岩手大学		
② 大学等の設置者	国立大学法人岩手大学	③ 設置形態	国立大学
④ 所在地	岩手県盛岡市上田三丁目18-8		
⑤ 申請するプログラム名称	数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)		
⑥ プログラムの開設年度	令和3	年度	⑦ 応用基礎レベルの申請の有無
			無
⑧ 教員数	(常勤)	398	人
	(非常勤)	401	人
⑨ プログラムの授業を教えている教員数		21	人
⑩ 全学部・学科の入学定員	1,030	人	
⑪ 全学部・学科の学生数(学年別)	総数	4,592	人
1年次	1,068	人	2年次
			1,080
3年次	1,109	人	4年次
			1,267
5年次	34	人	6年次
			34
⑫ プログラムの運営責任者			
(責任者名)	喜多一美	(役職名)	理事(教育・学生担当)・副学長
⑬ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)	教学マネジメントセンター、情報基盤センター、教務委員会、教養教育専門委員会		
(責任者名)	喜多一美	(役職名)	理事(教育・学生担当)・副学長 教学マネジメントセンター長
⑭ プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)	教学マネジメントセンター、教務委員会、教養教育専門委員会		
(責任者名)	喜多一美	(役職名)	理事(教育・学生担当)・副学長 教学マネジメントセンター長
⑮ 申請する認定プログラム	認定教育プログラム		

## 連絡先

所属部署名	学務部学務課長	担当者名	篠村 幸和
E-mail	<a href="mailto:gkyotsu@iwate-u.ac.jp">gkyotsu@iwate-u.ac.jp</a>	電話番号	019-621-6052

## ②教育プログラムの修了要件

すべての学生は、1年次前期に開講される教養教育科目「情報基礎A」(全学必修科目2単位)を取得すること。

[illegible][illegible]

⑤「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

[illegible]

⑥「活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

[illegible]

⑦「実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

[illegible]

⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	<p>データ・AI活用領域が、現在進行中の社会変化(データ駆動型社会への移行。Society 5.0)に伴い、様々な分野に広がっており「分野を問わない」こと、活用の広がり・一般化は我々の身の回り・生活と密接に結びついていることを学ぶ。また、データ・AIの活用には様々な技術・手法が用いられていること、これらの手法が一般化したのは半導体の進化に伴う計算機の高性能化・ツールの進化・クラウド利用の一般化など複合的な要因が基盤となっていることを理解する。</p> <p>＜情報探索1、データサイエンスについて-情報基礎A(対象:人文社会科学部学生対象)-1回目、9回目＞</p> <p>＜社会におけるデータ・AI利活用-情報基礎A(対象:教育学部学生対象)-1～2回目＞</p> <p>＜ガイダンス、AI・数理データサイエンス-情報基礎A(対象:理工学部学生対象)-1回目、4～8回目＞</p> <p>＜ガイダンス、情報の基礎、AI・数理データサイエンス-情報基礎A(対象:農学部学生対象)-1回目、2回目、6回目＞</p> <p>＜ガイダンス、情報の基礎、AI・数理データサイエンス-情報基礎A(対象:獣医学部学生対象)-1回目、2回目、5～6回目＞</p>
	1-6	<p>計算機およびツールの進化・一般化に伴い、様々な分野でデータ・AIが活用されていることから、所属する学部学科におけるデータ・AI的手法の活用・応用事例をとりあげながら学ぶ。</p> <p>＜データサイエンスについて-情報基礎A(対象:人文社会科学部学生対象)-9回目＞</p> <p>＜社会におけるデータ・AI利活用-情報基礎A(対象:教育学部学生対象)-1～2回目＞</p> <p>＜AI・数理データサイエンス-情報基礎A(対象:理工学部学生対象)-4～8回目＞</p> <p>＜AI・数理データサイエンス-情報基礎A(対象:農学部学生対象)-6回目＞</p> <p>＜AI・数理データサイエンス-情報基礎A(対象:獣医学部学生対象)-5～6回目＞</p>
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	<p>データの取り扱い、情報セキュリティ・情報倫理・情報モラル・(特定)個人情報の取り扱いを基盤とし、この上に、データ倫理・データセキュリティなどを踏まえた取り扱いをしなければならない。また、データの特性をふまえ、データの処理様式を考える必要があることから、データ取り扱いの基本的な考え方と処理方法について、講義・演習を通して学ぶ。</p> <p>＜情報探索2、データサイエンスについて-情報基礎A(対象:人文社会科学部学生対象)-2回目、9回目＞</p> <p>＜社会におけるデータ・AI利活用、数理・データサイエンス・AI心得-情報基礎A(対象:教育学部学生対象)-1～2回目、4回目＞</p> <p>＜情報セキュリティ、情報・データ倫理、モラル、著作権、AI・数理データサイエンス-情報基礎A(対象:理工学部学生対象)-3回目、4～8回目＞</p> <p>＜AI・数理データサイエンス、情報の基礎、情報セキュリティ、個人情報保護-情報基礎A(対象:農学部学生対象)-2～4回目、6回目＞</p> <p>＜個人情報保護、データ倫理・データセキュリティ、AI・数理データサイエンス-情報基礎A(対象:獣医学部学生対象)-4～6回目＞</p>
	1-3	<p>データ・AI活用領域の広がりは非常に広く、分野を問わない。人文社会、教育、理工、農のそれぞれの活用例に触れながら、日常生活や我が国が直面する諸問題の解決にどのように生かされているのかを学ぶ。また、グループワークで利活用及び問題点などについて議論する。</p> <p>＜情報探索2、データサイエンスについて-情報基礎A(対象:人文社会科学部学生対象)-2回目、9回目＞</p> <p>＜社会におけるデータ・AI利活用-情報基礎A(対象:教育学部学生対象)-1～2回目＞</p> <p>＜AI・数理データサイエンス-情報基礎A(対象:理工学部学生対象)-4～8回目＞</p> <p>＜AI・数理データサイエンス-情報基礎A(対象:農学部学生対象)-6回目＞</p> <p>＜AI・数理データサイエンス-情報基礎A(対象:獣医学部学生対象)-5～6回目＞</p>

<p>(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの</p>	<p>1-4 データ分析には様々な手法がある。データの種別・特性により、適応すべき手法が異なる。データの特性を踏まえずに不適切な分析をすることは禁忌である。データ分析を実データを用いた演習形式で取り扱うことで、データ分析の基礎を学ぶ。          &lt;情報デザイン1、情報の表現方法、表計算の基礎、データサイエンスについて、データ分析-情報基礎A(対象:人文社会科学部学生対象)-5回目、8回目、10回目、9回目、11回目&gt;          &lt;社会におけるデータ・AI利活用、数理・データサイエンス・AI心得-情報基礎A(対象:教育学部学生対象)-1～2回目、4回目&gt;          &lt;AI・数理データサイエンス-情報基礎A(対象:理工学部学生対象)-4～8回目&gt;          &lt;AI・数理データサイエンス、データ分析-情報基礎A(対象:農学部学生対象)-6回目、7～10回目&gt;          &lt;AI・数理データサイエンス、計算と統計への応用-情報基礎A(対象:獣医学部学生対象)-5～6回目、11～12回目&gt;</p> <p>1-5 データ分析には様々な手法があり、手法の適応方法もデータの特性を踏まえて考えなければならない。すなわち、データ分析の結果を精査し、用いた手法および手法の適応方法が適切であるか否を検討しなければならない。講義では、様々なデータ利活用事例を示しつつ、適切なデータ分析手法について学ぶ。          &lt;表計算の基礎、データサイエンスについて、データ分析-情報基礎A(対象:人文社会科学部学生対象)-10回目、9回目、11回目&gt;          &lt;社会におけるデータ・AI利活用、数理・データサイエンス・AI心得-情報基礎A(対象:教育学部学生対象)-1～2回目、4回目&gt;          &lt;AI・数理データサイエンス-情報基礎A(対象:理工学部学生対象)-4～8回目&gt;          &lt;AI・数理データサイエンス、データ分析-情報基礎A(対象:農学部学生対象)-6回目、7～10回目&gt;          &lt;AI・数理データサイエンス、計算と統計への応用-情報基礎A(対象:獣医学部学生対象)-5～6回目、11～12回目&gt;</p>
<p>(4)活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする</p>	<p>3-1 データ分析・AIは、データがあって成立する。データの取り扱いについて、人に関するものであれば個人情報保護やデータ倫理などを踏まえること、関連する法制度も遵守すること、データの作成者やライセンス形態にも注意して利活用する必要があることを学ぶ。          &lt;情報セキュリティ、情報倫理、コンピューターに関する基礎知識1、コンピューターに関する基礎知識2-情報基礎A(対象:人文社会科学部学生対象)-4回目、5回目、8回目&gt;          &lt;数理・データサイエンス・AI心得-情報基礎A(対象:教育学部学生対象)-4回目&gt;          &lt;情報セキュリティ、情報・データ倫理、モラル、著作権-情報基礎A(対象:理工学部学生対象)-7 4回目&gt;          &lt;情報セキュリティ、情報倫理・モラル、著作権、個人情報保護、データ倫理-情報基礎A(対象:農学部学生対象)-3回目、4回目&gt;          &lt;情報倫理・モラル、著作権、個人情報保護、データ倫理・データセキュリティ-情報基礎A(対象:獣医学部学生対象)-3～4回目&gt;</p> <p>3-2 情報セキュリティ・情報倫理・情報モラルや計算機やネットワークの理解を基盤として、データを守る際に考慮すべきことを学ぶ。また、データを守るための情報セキュリティ的な安全性確保、適切なバックアップ、利用・閲覧権限の適切な管理などを理解する。          &lt;情報セキュリティ、情報倫理、コンピューターに関する基礎知識1、コンピューターに関する基礎知識2-情報基礎A(対象:人文社会科学部学生対象)-4回目、5回目、8回目&gt;          &lt;数理・データサイエンス・AI心得-情報基礎A(対象:教育学部学生対象)-4回目&gt;          &lt;情報セキュリティ、情報・データ倫理、モラル、著作権-情報基礎A(対象:理工学部学生対象)-3回目&gt;          &lt;情報セキュリティ、情報倫理・モラル、著作権、個人情報保護、データ倫理-情報基礎A(対象:農学部学生対象)-3回目、4回目&gt;          &lt;情報倫理・モラル、著作権、個人情報保護、データ倫理・データセキュリティ-情報基礎A(対象:獣医学部学生対象)-3～4回目&gt;</p>

<p>(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの</p>	2-1	<p>データを分析するためには、データから得られる基本的な統計量を理解し導出できる必要があることから、実データを用いた演習を通じて、データの処理について学ぶ。</p> <p>＜表計算、テキストマイニング-情報基礎A(対象:人文社会科学部学生対象)-10～12回目、13回目＞</p> <p>＜MS-Excelの操作を通したデータリテラシー-情報基礎A(対象:教育学部学生対象)-7～13回目＞</p> <p>＜AI・数理データサイエンス-情報基礎A(対象:理工学部学生対象)-4～8回目＞</p> <p>＜データ分析-情報基礎A(対象:農学部学生対象)-7～9回目＞</p> <p>＜AI・数理データサイエンス、計算と統計への応用-情報基礎A(対象:獣医学部学生対象)-5～6回目、11～12回目＞</p>
	2-2	<p>データの特長をふまえ適切な手法で可視化することは、データの理解だけではなく説明のためにも重要である。実データを様々な手法で可視化することで、グラフ化による見え方の違いおよび比較におけるグラフの種類での差異について、演習を通じて理解を深める。</p> <p>＜表計算、テキストマイニング-情報基礎A(対象:人文社会科学部学生対象)-10～12回目、13回目＞</p> <p>＜MS-Excelの操作を通したデータリテラシー-情報基礎A(対象:教育学部学生対象)-7～13回目＞</p> <p>＜AI・数理データサイエンス-情報基礎A(対象:理工学部学生対象)-4～8回目＞</p> <p>＜データ分析-情報基礎A(対象:農学部学生対象)-7～9回目＞</p> <p>＜AI・数理データサイエンス、計算と統計への応用-情報基礎A(対象:獣医学部学生対象)-5～6回目、11～12回目＞</p>
	2-3	<p>データの分析を行うには、計算機で何らかのツールを用いて行う。プロトタイプやとりあえず分析する場合は、表計算ソフトウェアや数値解析ソフトウェア、簡単なスクリプト言語やプログラムで処理される。実データを何らかの処理様式で分析することで、基礎的なデータの取り扱いと分析について理解を深める。</p> <p>＜表計算、テキストマイニング-情報基礎A(対象:人文社会科学部学生対象)-10～12回目、13回目＞</p> <p>＜MS-Excelの操作を通したデータリテラシー-情報基礎A(対象:教育学部学生対象)-7～13回目＞</p> <p>＜AI・数理データサイエンス-情報基礎A(対象:理工学部学生対象)-4～8回目＞</p> <p>＜データ分析-情報基礎A(対象:農学部学生対象)-7～9回目＞</p> <p>＜AI・数理データサイエンス、計算と統計への応用-情報基礎A(対象:獣医学部学生対象)-5～6回目、11～12回目＞</p>

#### ⑩プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

1. 第4次産業革命、Society5.0 データ駆動型社会といった社会変化に数理・データサイエンス・AIが深く寄与していること、また、実際の日常生活においても密接に関係していることについて説明できる。
2. 数理・データサイエンス・AIが対象とするデータ活用領域は、実社会において広範囲にわたっており、各分野における知見との組み合わせにより価値が創出され、様々な課題解決に寄与していることを説明できる。
3. 社会で活用されている実データや実課題について、「データを読む、説明する、扱う」ための基本的な思考方法やICTの活用方法を習得できる。
4. 数理・データサイエンス・AIを活用する上での様々な留意事項(ELSI、個人情報、セキュリティ、データ倫理等)の重要性を理解し、説明できる。

#### ⑪プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<https://www.iwate-u.ac.jp/campus/course/ds.html>

## プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和3

年度

## ②履修者・修了者の実績

[illegible]

## 教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

### ① プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

岩手大学教学マネジメントセンター規則、岩手大学情報基盤センター規則、岩手大学教務委員会規則

### ② 体制の目的

教学マネジメントセンターは、「教育の実施に係る調整及び改善に関すること」、「学修成果や教育成果の把握・可視化に関すること」等、情報基盤センターは、「情報教育に関すること」、「教材開発及びマルチメディア環境を活用した教育活動の支援に関すること」等、全学教務委員会は、「教育の実施(内部質保証を含む。)に関すること」、「教育の評価に関すること」、「教育の改善にすること」等を任務としている。2つのセンターと全学教務委員会が連携・協力し、「AI戦略2019(統合イノベーション戦略推進会議決定)」に基づき、「文理を問わず、すべての大学生が、初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得する」という国家戦略の達成に向けて、全学部学生を対象とした教育プログラムの策定、実施、質保証、教育改善・進化を行う。

### ③ 具体的な構成員

○教学マネジメントセンター  
センター長 喜多一美  
副センター長 後藤尚人  
専任教員 平野敬和

○情報基盤センター  
センター長 山本欣郎  
副センター長(教育研究システム担当) 中西貴裕  
専任教員 川村暁

○教務委員会  
理事(教育・学生担当)・副学長 喜多一美  
国際教育センター長 藪敏裕  
人文社会科学部評議員 松林城弘  
教育学部評議員 天木桂子  
理工学部評議員 成田晋也  
農学部評議員 澤井健  
人文社会科学部教務委員長 中村安宏  
教育学部学務委員長 犬塚博彦  
理工学部教務委員長 成田晋也  
農学部教務委員長 関野登  
教学マネジメントセンター副センター長 後藤尚人  
教学マネジメントセンター専任教員 平野敬和  
学務部長 山口敬一

### ④ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和3年度実績	26%	令和4年度予定	50%	令和5年度予定	75%
令和6年度予定	100%	令和7年度予定	100%	収容定員(名)	4,250

#### 具体的な計画

本プログラム(令和3年度～)を構成する授業科目の「情報基礎A」は全学必修科目であり、全学生が履修する。



⑤ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本プログラム(令和3年度～)を構成する授業科目の「情報基礎A」は全学必修科目であり、全学生が履修する。

⑥ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本プログラム(令和3年度～)を構成する授業科目の「情報基礎A」は全学必修科目であり、全学生が履修する。

⑦ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

本プログラム(令和3年度～)を構成する授業科目の「情報基礎A」は全学必修科目であり、全学生が履修する。

⑧ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

全学生がWeb Class(LMS)を活用し、授業担当者に質問をすることができ、学習指導を受けることができる仕組みとなっているほか、授業担当者のほかにも、学修支援室(学生の学修における疑問や悩みに対応した指導・支援・企画を行う組織)において情報系の教員から学習指導を受けることも可能となっている。

## 自己点検・評価について

## ① 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	<p>本教育プログラムを構成している「情報基礎A」は、全学部1年生の必修科目となっている。全学生の履修状況については、Web Class(LMS)において課題やレポートの提出状況等を確認できるほか、達成度評価システム(ポートフォリオ)により、各学生の修得状況等を確認することができるシステムとなっている。さらに、プログラムの修得状況については、教学マネジメントセンターにおいて、全履修学生の成績評価の比率と学生アンケート結果を踏まえた分析等を行っており、その結果を全学教務委員会において確認し、各授業科目やプログラムの改善等についての審議を行っている。</p>
学修成果	<p>学生への授業評価アンケートの中で、満足度、学修時間、主体性、課題発見の契機、将来への有用性などの項目を設けており、満足度については98.8%の学生が履修してよかったと回答しているほか、全学教務委員会において達成度評価システムによるディプロマポリシーの達成度の確認・評価分析を行っている。</p>

<p>学生アンケート等を通じた 学生の内容の理解度</p>	<p>学生アンケート結果からは、満足度98.8%、将来への有用性100%、更なる学修への意欲87.2%と高い数字が見て取られた。さらに、全履修学生の成績評価の比率の分析結果を全学教務委員会で確認しており、各授業のアンケート結果等による授業改善等を行うとともに、情報基盤センター教員を講師としたFD研修『数理・データサイエンス・AI教育の授業方法をめぐって』を教学マネジメントセンターが主催開催し、授業担当者の授業力向上を図っている。</p>
<p>学生アンケート等を通じた 後輩等他の学生への推奨度</p>	<p>本プログラムの構成科目である「情報基礎A」については、全学生に身につけさせたい技法知科目としての必修科目となっているため、授業後の授業評価アンケートにおいて「後輩等に推奨したいか」といった質問はなく自由記述にも見られないが、「授業の内容が、到達目標や目的に役立つと思うか」という質問に「役立つと思う」と回答した割合は100%であり、自由記述においても、数理データサイエンスの重要性や現代社会に必要なメディアリテラシーが養われた旨の回答が見られた。</p>
<p>全学的な履修者数、履修 率向上に向けた計画の達 成・進捗状況</p>	<p>本教育プログラムを構成している「情報基礎A」は、全学部1年生の必修科目履修率は100%である。</p>

学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>本プログラムの修了生が卒業する令和7年度以降に、企業等への卒業生アンケート項目に本プログラムの効果を問う設問を用意し、外部からの評価を踏まえ、プログラムの改善に役立てる予定である。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>いわて高等教育地域連携プラットフォームならびに経営協議会の場を活用し、地域産業界からの意見を伺い、教育プログラム改善の参考とする。</p>

<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>令和3年度の学生アンケート結果からは、満足度98.8%、将来への有用性100%、更なる学修への意欲87.2%と高い数字が見て取られたため、「学ぶことの楽しさ」や「学ぶことの意義」は理解されていると推察できるが、さらに本プログラムの修了生が社会人となった際の評価結果についてもプログラムの改善等に反映させていく予定である。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>令和3年度の学生アンケート結果からは、「授業の説明や指示のわかりやすさ」について、92%が「わかりやすい」という評価となったが、令和4年度の実施に向けて、教学マネジメントセンター主催のFD研修『数理・データサイエンス・AI教育の授業方法をめぐって』を開催し、授業改善を図ったところである。今後も学生や企業などのステークホルダーからのアンケート結果を踏まえ、プログラムの自己点検評価・改善を行う予定である。</p>

②自己点検・評価体制における意見等を公表しているアドレス

<https://www.iwate-u.ac.jp/campus/course/ds.html>

年度		2025	開講学期	前期	単位数	2	時間割コード	QC52
授業科目名		情報基礎 A			担当教員名	白倉 孝行		
授業科目名：英語		Basic Computer Science A						
重複科目名								
セット科目名								
開講情報			曜日	時限	時間割コード		【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）	
		1	月	3	QC52			
主な対象学生		人文社会科学部 1						
科目の情報		科目の種別	教養教育科目		科目番号	GIS111B		
主な使用言語		Japanese						
履修上の条件								
担当教員情報	氏名（カナ）	白倉 孝行（シラク タカキ）						
	担当教員名（英語）	Shirakura Takayuki						
	常勤・非常勤	非常勤						
	所属							
	研究室							
	公式サイト	researchmap：https://researchmap.jp/read0180236						
	個人サイト							
質問・相談方法		随時						
他の担当教員								
キーワード		ICTリテラシー literacy of information and communication technology、情報探索 information search、情報デザイン information design、ソフトウェアの活用 utilization of elementary application softwares、データサイエンス mathematical data science、著作権 copyright、数理データ						
学位授与方針との関係		学位授与の方針：学士課程						
		幅広い基礎的知識：文化・社会・自然に関する諸現象についての学問的な基礎的知識を有する						10%
		学位授与の方針：学士課程						
		領域を超えた学際的知識：グローバル化、高度情報化、環境問題や持続可能性等の人類的諸課題を正しく捉えるための学際的知識を有する						10%
		学位授与の方針：学士課程						
授業の目的		以下の諸点を本授業の目的とします。 ・情報および情報手段を活用できる基礎的な知識や技能を習得すること ・情報や情報手段を適切に取捨選択し、思考や意思決定に活かすための能力を身につけること ・今後の情報社会を情報社会に参画する上で望ましい能力と態度を身につけること						
		【ウェブ等を活用した情報収集能力＆ネットワークコミュニケーション能力】 ・ウェブ等を利用し、必要な情報を確実に抽出できる。またその情報の信憑性について判断することができる。 ・ウェブ社会のこわさや可能性などについて説明できる。 ・電子メールのマナーについて説明できる＆マナーにのっとったビジネスメールを送ることができる。						
到達目標		【ICT基礎知識】 ・コンピュータやインターネットに関する基礎知識を身につけ、他人に説明できる。 ・ネットワークを利用する上で守るべきこと、気を付けるべきこと（情報セキュリティや情報倫理を含む）について他人に教示できる。 ・データサイエンスに関する基礎的な知識を身につけ、他人に説明できる。						
		【コンピュータ活用能力（文書作成＆データ処理能力）】 ・各種の文書（定型文書・レジュメ等）を適切に作成できる。 ・簡単なデータ分析とその結果の視覚化を行うことができる。 ・コンピュータやネットワーク利用中のトラブルを自力で解決できる。						
		【情報デザイン能力】 ・デザインされたコンテンツを評価するまなざしを持つ。 ・見る人の立場に立って、コンテンツ（地図等）を作ることができる。						
授業の概要		コンピュータやネットワークを利用する能力はすでに現代人には不可欠のものとなっています。ただし、「とにかく使える」というだけでは、もはや充分とはいえません。 この授業では、コンピュータやネットワークについての基礎知識を学び、また実習課題を通して基本的スキルを身につけていく中で、「いかに賢く使いこなすか」、「刻々と変化するであろう情報環境にいかに対応できるようになるか」といったことを自覚的に考えながら学んでもらえるようにしたいと思っています。						
実務経験の有無と授業内容への反映								

授業の形式		・講義とコンピュータ実習を適宜おり交ぜながら授業を進めていきます。  遠隔授業への該当（全授業回の半数を超えてオンライン授業を実施する場合） 【しない】	
授業外学修（予習・復習・課題等）への指示		・実習課題の一部は授業時間外に作成してもらいます。 ・知識の定着をはかるためにテストを行います。	
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）			
回 / 週	授業内容	授業外学修（予習・復習・課題等）への指示	備考
1	・授業の目的・目標の説明【講義】  ・情報探索 1【講義】 情報探索を行う上での基礎知識	学内情報システムを使うための環境整備（多要素認証など）	
2	・情報探索 2【講義・実習】 学術情報へのアクセス ウェブ上の情報の信憑性をどう判断するか？ ウェブ社会のもつこわさ ウェブの価値	関心のあるテーマについての論文を見つける	
3	・電子メール 1【講義】 電子メールの基本 メール作成の作法  ・電子メール 2【実習】 メール作成	メール課題	
4	・情報セキュリティ【講義】 ウィルス・ワーム ウィルス対策  ・情報倫理【講義】 ネットチケット 著作権 その他	自己のセキュリティ対策のチェック	
5	・コンピュータに関する基礎知識 1【講義】 コンピュータの構成要素  ・情報デザイン 1【講義】 情報デザインとは 情報をデザインするうえで大事なこと  ・情報デザイン 2【実習】 地図の作成	講義内容についての復習	
6	・情報デザイン 3【実習】 地図の作成  ・文書作成 1【講義】 Wordに関するいくつかのポイント	地図課題完成	
7	・コンピュータに関する基礎知識 2【講義】 ソフトウェア・ハードウェア・OS プログラミングについて アルゴリズムについて  ・文書作成 2【実習】 定型文書の作成	講義内容についての復習	
8	・コンピュータに関する基礎知識 2【講義】 情報の表現方法（文字・画像など） 記憶装置の容量とデータのサイズについて	講義内容についての復習 定型文書課題の完成・提出	
9	・データサイエンスについて【講義】	講義内容についての復習	
10	・表計算 1【実習】 表計算の基礎 データベース機能の利用	実習内容の反復操作	
11	・表計算 2【データサイエンス実習】 データ分析 分析データの可視化 調査データの集計・分析	データ分析課題の復習	
12	・表計算 3【問題演習】 演習問題の解答・解説	演習問題の復習	
13	・テキストマイニング【データサイエンス実習】 ・生成AIとデータ倫理【講義及び実習】	テキストマイニング課題の復習 生成AI課題の復習 授業全体の復習	
14	・テスト		



15			
16			
17			
18			
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点
			関心・意欲 知識・理解 技能・表現 思考・判断
	平常点・ミニ課題	30%	
	実習課題・提出課題	30%	
	期末テスト	40%	
評価の基準			
<p>平常点：授業への参画態度、ミニ課題などにより評価します。</p> <p>実習課題・提出課題：各課題の実施状況、クオリティを評価します。</p> <p>提出課題</p> <p>自作地図画像</p> <p>文書作成課題（定型文書等）</p> <p>その他</p> <p>テスト：（100点満点で80点以上を目指してください）</p>			
履修における留意点			
教科書 / 教材			
参考文献		岩手大学情報教育教科書編集委員会、情報基礎、学術図書出版社、2022年、978478061002	

年度		2025	開講学期	前期	単位数	2	時間割コード	QC55
授業科目名		情報基礎 A			担当教員名	早坂 良		
授業科目名：英語		Basic Computer Science A						
重複科目名								
セット科目名								
開講情報			曜日	時限	時間割コード	【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）		
		1	月	3	QC55			
主な対象学生		教育学部 学校教育教員養成課程 小学校教育コース 1						
科目の情報		科目の種別	教養教育科目		科目番号	GIS111B		
主な使用言語		Japanese						
履修上の条件								
担当教員情報	氏名（カナ）	早坂 良（ハヤカリョウ）						
	担当教員名（英語）	Ryo Hayasaka						
	常勤・非常勤	常勤						
	所属	教育学部						
	研究室	教育学部1号館-117室						
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/100000200_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/hayasaka.ryo						
	個人サイト							
	質問・相談方法	教育学部1号館-117室入口に「在室」と表示されている時						
他の担当教員		中條 しづ子、佐々木 邦明						
キーワード		情報機器の操作（教育職員免許法施行規則第66条の6）Operation of information equipment、情報活用の実践力 Practical ability to utilize information、情報セキュリティ information security、統計解析 Statistical analysis、数理データ						
学位授与方針との関係		学位授与の方針：学士課程						
		幅広い基礎的知識：文化・社会・自然に関する諸現象についての学問的な基礎的知識を有する						10%
		学位授与の方針：学士課程						
		領域を超えた学際的知識：グローバル化、高度情報化、環境問題や持続可能性等の人類的諸課題を正しく捉えるための学際的知識を有する						10%
		学位授与の方針：学士課程						
授業の目的		情報リテラシー：多様な情報を適切かつモラルに則って収集・処理・分析し、その結果を有効に活用できる						80%
授業の目的		本講義では、岩手大学のネットワークのしくみを理解し、端末機器を利用する方法を習得し、学生生活および今後の社会生活に役立つ情報活用実践力の育成を図る。 また、近年重要視されている数理データサイエンスについて、簡単な統計解析について理解を深める。						
到達目標		学内のネットワーク環境について理解し、情報の収集ができるようになるとともに、ワープロ、表計算、プレゼンテーション各ソフトウェアを活用して、情報を処理して表現し、発信できるようになる。 情報システムの特性やヒューマンエラーに着目した事例を学び、情報セキュリティについて意識を高める。 簡単な統計解析について理解を深め、表計算アプリを活用したデータ分析ができるようになる。						
授業の概要		岩手大学のネットワークを有効に活用し、今後の学生生活、社会生活に役立つように、基本的なアプリケーションソフトウェアの活用についてそれぞれ演習を中心として実施する。 情報社会で被害者・加害者とならないよう、情報セキュリティ、情報モラルについても扱う。 なお、近年重要視されている数理データサイエンスについては、表計算アプリを活用して簡単な統計解析について理解を深め、簡単なデータ分析ができるようになるための演習を行う。						
実務経験の有無と授業内容への反映								
授業の形式		講義＋演習						
		遠隔授業への該当（全授業回の半数を超えてオンライン授業を実施する場合） 【しない】						
授業外学修（予習・復習・課題等）への指示		提出課題が時間内にできない場合は、教室外での取り組みが必要となる。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）								
回 / 週	授業内容			授業外学修（予習・復習・課題等）への指示			備考	
1	本授業のオリエンテーション（授業の概要、評価方法の確認、学内ネットワーク利用の諸注意）			テキストpp.137-141のパスワードの付け方，pp.224-228のアカウントの登録方法				

1	<p>レディネステスト，ネットワークログインについて扱う。</p> <p>社会におけるデータ・AI利活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会におけるデータ・AI利活用と身近な活用事例，新たな価値の創出，学修する必要性等について論じる。</li> </ul>	<p>テキストpp.184-191の数理・データサイエンス・AI</p>	
2	<p>社会におけるデータ・AI利活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータの基本構造，データの利活用（データ分析），データ・AIを活用するために使われている技術の概要，最新の動向について解説する。</li> </ul> <p>とともに，自己評価のためのスキルチェックリストを実施する。</p> <p>WebClassの利用方法（資料のダウンロードとレポート課題の提出方法）の習得のための演習を実施する。</p>	<p>テキストpp.1-18のコンピュータについて</p> <p>テキストpp191-210の数理・データサイエンス・AI</p>	
3	<p>インターネットを活用したコミュニケーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット及び電子メールの仕組みを説明し，基本的な設定，送受信の演習を実施する。</li> </ul>	<p>テキストpp.151-162のクラウドサービス，Gメールについて</p>	
4	<p>数理・データサイエンス・AI 心得</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データ・AIを扱う上での留意事項，個人情報保護法などデータを取り巻く国際的な動きを解説する。</li> <li>・データ・AIを活用する際に求められるモラルや倫理について論じる。</li> <li>・データ駆動型社会における脅威（リスク），個人のデータを守るために留意すべき事項を解説する。</li> <li>・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例も紹介する。</li> </ul>	<p>テキストpp.135-151の情報セキュリティと情報倫理，ソーシャルメディアの活用について</p>	
5	<p>MS-Wordの操作を通したデータリテラシー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文書作成ソフトウェアとしてMS-Wordをとりあげ，その基本的な操作法の演習を行う。</li> <li>・画像形式，テキスト形式等のファイルフォーマットを理解する。</li> </ul>	<p>テキストpp.64-94の文書作成(Word)について</p> <p>提出課題1</p>	
6	<p>MS-PowerPointの操作を通したデータリテラシー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションソフトウェアとしてMS-PowerPointを取り上げ，その基本的な操作法の演習を行う。</li> <li>・データの表現，可視化，チャート化についての重要性について理解する。</li> </ul>	<p>テキストpp.95-109のプレゼンテーション(PowerPoint)</p> <p>提出課題2</p>	
7	<p>MS-Excelの操作を通したデータリテラシー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表計算ソフトウェアとしてMS-Excelをとりあげ，その基本的な操作法の演習を行う。</li> <li>・MS-Excelの簡単な論理関数を解説するとともに，用意した課題に取り組む。</li> </ul>	<p>テキストpp.19-38の表計算(Excel)について</p> <p>提出課題3</p>	
8	<p>MS-Excelの操作を通したデータリテラシー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・MS-Excelのピボットテーブル機能（データベース，クロス集計表等）を解説するとともに，演習に取り組む。</li> <li>・CSV形式のデータの取り扱いを理解する。</li> </ul>	<p>テキストpp.39-44の表計算(Excel)について</p> <p>提出課題4</p>	
9	<p>MS-Excelの操作を通したデータリテラシー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・MS-Excelの簡単なマクロを活用した成績表の作成に取り組む。</li> <li>・プログラミング（操作の自動化）の概念を理解する。</li> </ul>	<p>テキストpp.57-63の表計算(Excel)について</p> <p>提出課題5</p>	
10	<p>MS-Excelの操作を通したデータリテラシー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統計解析の概要を解説する。</li> <li>・度数分布表，ヒストグラム，ローレンツ曲線について，MS-Excelを活用して演習に取り組む。</li> </ul>	<p>テキストpp45-50の統計解析の基礎</p> <p>授業中に終えられなかった演習課題</p>	
11	<p>MS-Excelの操作を通したデータリテラシー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1次元のデータ，代表値，散らばりの尺度について，MS-Excelを活用して演習に取り組む。</li> </ul>	<p>テキストpp51-54の統計解析の基礎</p> <p>授業中に終えられなかった演習課題</p>	
12	<p>MS-Excelの操作を通したデータリテラシー</p>	<p>テキストpp54-56の統計解析の基礎</p>	

12	・標準化，散布図について，MS-Excelを活用して演習に取り組む。	授業中に終わらなかった演習課題	
13	MS-Excelの操作を通したデータリテラシー ・2次元のデータ，共分散，相関係数，回帰分析について，MS-Excelを活用して演習に取り組む。	講義にて配付される資料の復習及び演習課題 授業中に終わらなかった演習課題	
14	本講義の総括および試験を行う。	試験内容の復習	
15			
16			
17			
18			
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点
			関心・意欲 知識・理解 技能・表現 思考・判断
	平常点	20%	
	テスト	60%	
	課題	20%	
評価の基準			
<p>平常点・・・20点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教免法必修である「情報機器の操作」2単位の科目に該当するので，出席を重視し，欠席については1回につき4点減点（オンラインとなった場合は除く）。</li> <li>・課題作成に熱心に取り組んでいる。</li> </ul> <p>テスト・・・60点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各回で扱った内容について理解できているか，定着しているかをチェックする。</li> <li>・学期末にテストを実施する。未受験の場合は，単位認定（合格認定）しません。</li> </ul> <p>課題・・・20点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文書作成、表計算、プレゼンテーション等の各ソフトウェアを用いての課題提出状況およびその完成度</li> </ul>			
履修における留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習もあるので，出席を重視します。5回以上の欠席は，単位認定（合格認定）しません。</li> <li>・学期末のテストを受けない場合は，「0点」ではなく，単位認定（合格認定）しません。</li> </ul>		
教科書 / 教材	岩手大学情報教育教科書編集委員会 編、情報基礎 コンピュータの基本操作と情報活用術（第5版）、学術図書出版社、2022年、9784780610024		
参考文献			

年度		2025	開講学期	前期	単位数	2	時間割コード	QC59
授業科目名		情報基礎 A			担当教員名	山口 明		
授業科目名：英語		Basic Computer Science A						
重複科目名								
セット科目名								
開講情報			曜日	時限	時間割コード		【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）	
		1	月	2	QC59			
主な対象学生		理工学部 理工学科 数理・物理 1 / 理工学部 理工学科 材料科学 1						
科目の情報		科目の種別	教養教育科目		科目番号	GIS111B		
主な使用言語		Japanese						
履修上の条件								
担当教員情報	氏名（カナ）	山口 明（ヤマゲチアキラ）						
	担当教員名（英語）	Akira Yamaguchi						
	常勤・非常勤	常勤						
	所属	理工学部 理工学科						
	研究室	理工 - 2 - 4 1 6						
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/220_ja.html researchmap：https://researchmap.jp/read0047062						
	個人サイト							
	質問・相談方法	月曜 3 時限						
他の担当教員								
キーワード		コンピュータの基礎知識・情報機器の操作 Basic computer knowledge and operation of information equipment、ネットワーク・インターネット・文書作成・表計算・プレゼンテーション Network, Internet, Documentation, Spreadsheet, Presentation、情報セキュリティ・情報・データ倫理・モラル Information Security, Information Ethics and Morality、著作権 copyright、情報探索 information seeking、AI・数理データサイエンス AI and Mathematical Data Science、数理データ						
学位授与方針との関係		学位授与の方針：学士課程						
		幅広い基礎的知識：文化・社会・自然に関する諸現象についての学問的な基礎的知識を有する						10%
		学位授与の方針：学士課程						
		領域を超えた学際的知識：グローバル化、高度情報化、環境問題や持続可能性等の人類的諸課題を正しく捉えるための学際的知識を有する						10%
		学位授与の方針：学士課程						
		情報リテラシー：多様な情報を適切かつモラルに則って収集・処理・分析し、その結果を有効に活用できる						80%
授業の目的		本講義では、コンピュータおよび情報ネットワークに関する「基礎的な理論と技術」を習得し、学生生活および社会生活を送る上で身につけておくべき情報活用実践力の育成を図る。 また、近年重要視されている数理データサイエンス・AIについて、講義および演習を通じて理解を深める。						
到達目標		学内のネットワーク環境について理解し、情報探索ができるようになるとともに、ワープロ、表計算、プレゼンテーション各ソフトウェアを活用して、情報を処理して表現し、発信できるようになる。 情報システムの特性やヒューマンエラーに着目した事例を学び、情報セキュリティについて意識を高める。また、情報倫理・モラルや、著作権、個人情報保護、データ倫理などを踏まえ、情報・データを適切に取り扱うことが出来るようになる。 AI・数理データサイエンスについて理解を深めるとともに、表計算ソフトウェア等を活用したデータ分析ができるようになる。						
授業の概要		岩手大学のネットワークおよびインターネットやクラウドサービス等を有効に活用し、今後の学生生活、社会生活に役立つように、基本的なアプリケーションソフトウェアおよび電子メール等の活用についてそれぞれ演習を中心として実施する。 情報社会で被害者・加害者とならないよう、情報セキュリティ、情報倫理・モラル、個人情報保護や、情報・データの取り扱いについても概説する。 なお、近年重要視されているAI・数理データサイエンスについては、講義で概要をつかんだ後に、表計算ソフトウェアやAIを活用して簡単なデータ分析やデータ処理・データ解析の演習を行う。						
実務経験の有無と授業内容への反映								
授業の形式		講義＋演習 状況に応じてオンライン講義となる場合がある。						
		遠隔授業への該当（全授業回の半数を超えてオンライン授業を実施する場合） 【しない】						
授業外学修（予習・復習・課題等）への指示		提出課題が時間内にできない場合は、講義時間外での取り組みが必要となる。						

詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）						
回 / 週	授業内容	授業外学修（予習・復習・課題等）への指示	備考			
1	ガイダンス ・講義ガイダンス，本授業のオリエンテーション（授業の概要，評価方法の確認，学内ネットワーク利用の諸注意），システムの利用方法（PC，WebClass，クラウド）など ・授業意向アンケート調査	実際に端末を操作して復習する。				
2	メールの利用・ワードによる文章の作成・タイピング	メールの使い方についてWebClass等で予習する。 実際に端末を操作して復習する。				
3	情報セキュリティ・情報・データ倫理・モラル・著作権	情報セキュリティ・情報・データ倫理・モラル・著作権について、WebClass等で予習する。 実際に端末を操作して復習する。				
4	AI・数理データサイエンス入門 ・画像変換のしくみ	AIについて、ネット等で予習する。 実際に端末を操作して復習する。				
5	AI・数理データサイエンス データ分析入門 ・エクセルでのデータ処理とグラフの作成	エクセルの操作について、WebClass等で予習する。 実際に端末を操作して復習する。				
6	AI・数理データサイエンス データ分析入門 ・エクセルでの大量のデータ処理とフィッティング	エクセルの操作について、WebClass等で予習する。 実際に端末を操作して復習する。				
7	AI・数理データサイエンス データ分析入門 ・エクセルを用いた繰り返し計算	エクセルの操作について、WebClass等で予習する。 実際に端末を操作して復習する。				
8	AI・数理データサイエンス データ分析入門 ・ディープラーニングのしくみ	AIについて、ネット等で予習する。 実際に端末を操作して復習する。				
9	Webページ作成I ・ホームページの作り方	Webページ作成について、WebClass等で予習する。 実際に端末を操作して復習する。				
10	Webページ作成II ・HTMLの概要、階層構造	Webページ作成について、WebClass等で予習する。 実際に端末を操作して復習する。				
11	Webページ作成III ・リンク、表、画像表示	Webページ作成について、WebClass等で予習する。 実際に端末を操作して復習する。				
12	プレゼンテーション資料の作成I ・より見やすい資料とは	プレゼンテーション資料の作成について、WebClass等で予習する。 実際に端末を操作して復習する。				
13	プレゼンテーション資料の作成II ・特殊効果の利用	プレゼンテーション資料の作成について、WebClass等で予習する。実際に端末を操作して復習する。				
14	プレゼンテーション資料の作成III ・まとめ方と優秀作品の発表	プレゼンテーション資料の作成について、WebClass等で予習する。実際に端末を操作して復習する。				
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
	平常点	40%	関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	課題	60%				
評価の基準						
出席と課題の提出状況が90%以上を合格とする。それに加えてほぼ全ての課題を正しく解いている場合には優とする。さらに特に優れている場合には秀とする。						
履修における留意点						
教科書 / 教材						
参考文献						

年度		2025	開講学期	前期	単位数	2	時間割コード	QC65
授業科目名		情報基礎 A			担当教員名	伊藤 幸男		
授業科目名：英語		Basic Computer Science A						
重複科目名								
セット科目名								
開講情報			曜日	時限	時間割コード	【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）		
		1	月	2	QC65			
主な対象学生		農学部 1						
科目の情報		科目の種別	教養教育科目		科目番号	GIS111B		
主な使用言語		Japanese						
履修上の条件								
担当教員情報	氏名（カナ）	伊藤 幸男（イトウ サチオ）						
	担当教員名（英語）	ITO, Sachio						
	常勤・非常勤	常勤						
	所属	農学部 地域環境科学科						
	研究室	農 - 2 - 4 1 0						
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧：http://univdb.iwate-u.ac.jp/html/19_ja.html researchmap：						
	個人サイト							
	質問・相談方法	メールで事前に相談してください。						
他の担当教員		松木 佐和子、真坂 一彦、齋藤 仁志、中西 貴裕						
キーワード		AI・数理データサイエンス AI and Mathematical Data Science、情報セキュリティ・倫理・モラル Information Security, Information ethics and morals、情報検索 information retrieval、著作権 Copyright、エクセル Excel、プレゼンテーション Presentation、数理データ						
学位授与方針との関係		学位授与の方針：学士課程						
		幅広い基礎的知識：文化・社会・自然に関する諸現象についての学問的な基礎的知識を有する						10%
		学位授与の方針：学士課程						
		領域を超えた学際的知識：グローバル化、高度情報化、環境問題や持続可能性等の人類的諸課題を正しく捉えるための学際的知識を有する						10%
		学位授与の方針：学士課程						
授業の目的		情報リテラシー：多様な情報を適切かつモラルに則って収集・処理・分析し、その結果を有効に活用できる						80%
到達目標		本講義では、コンピュータおよび情報ネットワークに関する「基礎的な理論と技術」を習得し、学生生活および社会生活を送る上で身につけておくべき情報活用実践力の育成を図る。 また、近年重要視されている数理データサイエンス・AIについて、講義および演習を通じて理解を深める。  学内のネットワーク環境について理解し、情報探索ができるようになるとともに、ワープロ、表計算、プレゼンテーション各ソフトウェアを活用して、情報を処理して表現し、発信できるようになる。 情報システムの特性やヒューマンエラーに着目した事例を学び、情報セキュリティについて意識を高める。また、情報倫理・モラルや、著作権、個人情報保護、データ倫理などを踏まえ、情報・データを適切に取り扱うことが出来るようになる。 AI・数理データサイエンスについて理解を深めるとともに、表計算ソフトウェア等を活用したデータ分析ができるようになる。						
授業の概要		岩手大学のネットワークおよびインターネットやクラウドサービス等を有効に活用し、今後の学生生活、社会生活に役立つように、基本的なアプリケーションソフトウェアおよび電子メール等の活用についてそれぞれ演習を中心として実施する。 情報社会で被害者・加害者とならないよう、情報セキュリティ、情報倫理・モラル、個人情報保護や、情報・データの取り扱いについても概説する。 なお、近年重要視されているAI・数理データサイエンスについては、講義で概要をつかんだ後に、表計算ソフトウェアを活用して簡単なデータ分析の演習を行う。						
実務経験の有無と授業内容への反映								
授業の形式		講義および演習						
		遠隔授業への該当（全授業回の半数を超えてオンライン授業を実施する場合） 【しない】						
授業外学修（予習・復習・課題等）への指示		講義形式で行われた授業では配布資料や教科書の該当部分の復習を、また、実習形式で行われた授業では、目標に到達するまで各自で技能を修得すること。						

詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）						
回 / 週	授業内容	授業外学修（予習・復習・課題等）への指示			備考	
1	講義ガイダンス，本授業のオリエンテーション（授業の概要，評価方法の確認，学内ネットワーク利用の諸注意），システムの利用方法（PC，WebClass，クラウド）など	特になし				
2	情報の基礎情報とは（情報の重要性），計算機の数表現，情報の表現など（基数変換，浮動小数点表現，文字コード）	情報の基礎の復習				
3	情報セキュリティ（コンピュータセキュリティ，ネットワークセキュリティ），情報倫理・モラル，著作権	情報セキュリティ，情報倫理・モラル，著作権の復習				
4	ネットワークリテラシー，情報探索，個人情報保護，データ倫理・データセキュリティ	ネットワークリテラシー，情報探索，個人情報保護，データ倫理・データセキュリティの復習				
5	コンピュータの仕組みと基本操作・メール操作	コンピュータの仕組みと基本操作・メール操作の復習				
6	AI・数理データサイエンス入門	AI・数理データサイエンスの復習				
7	データ分析1 - エクセル 入力と演算 -	エクセル操作の復習				
8	データ分析2 - エクセル 関数 -	エクセル操作の復習				
9	データ分析3 - エクセル 図表の作成，統計処理等 -	エクセル操作の復習				
10	データ分析4 - エクセル 統計処理，データ分析等 -	エクセル操作の復習				
11	ワードの基本操作・機能の確認	ワード操作の復讐				
12	MSパワーポイントによるプレゼンテーション技法	パワーポイント操作の復習				
13	レポート作成の作法	レポート作成の作法の復習				
14	レポート作成演習	レポート作成の復習				
15						
16						
17						
18						
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点			
			関心・意欲	知識・理解	技能・表現	思考・判断
	平常点	60%				
	課題 1（エクセル 1 - 2）	10%				
	課題 2（エクセル 3 - 4）	10%				
	課題 3（レポート）	20%	○	○		○
評価の基準						
出席回数（60点）と3つの課題（10点、10点、20点）の100点満点で評価する。 出席率75%以上で、課題全てを提出した場合がこの科目に合格する最低ライン（可）である。 この条件を満たした上で、合計点70未満を「可」、70点以上80点未満を「良」、80点以上90点未満を「優」、90点以上を「秀」とする。						
履修における留意点						
教科書 / 教材		岩手大学情報教育教科書編集委員会 編、情報基礎 第5版 コンピュータの基本操作と情報活用術、学術図書出版社、2022年、978478061002				
参考文献						



年度		2025	開講学期	前期	単位数	2	時間割コード	VC66
授業科目名		情報基礎 A			担当教員名	大沼 俊名		
授業科目名：英語		Basic Computer Science A						
重複科目名		情報基礎 A【QC66】（【時間割コード】）						
セット科目名								
開講情報			曜日	時限	時間割コード	【凡例】 ：当該科目 ：同時に履修すべき 科目（セット科目）		
		1	月	2	VC66			
主な対象学生		農学部 動物科学・水産科学科 --- / 獣医学部 共同獣医学科 ---						
科目の情報		科目の種別			科目番号	VCE113B		
主な使用言語		Japanese						
履修上の条件								
担当教員情報	氏名（カナ）	大沼 俊名（材双トナ）						
	担当教員名（英語）	Toshina Ishiguro-Oonuma						
	常勤・非常勤	常勤						
	所属	獣医学部 共同獣医学科						
	研究室	農－ 3 - 3 2 6						
	公式サイト	岩手大学 研究者総覧： researchmap：https://researchmap.jp/toshina						
	個人サイト							
	質問・相談方法	随時						
他の担当教員		塚越 英晴、村元 隆行、川村 暁、上野山 怜子、沢里 克宏						
キーワード		コンピュータの基礎知識、情報機器の操作、ネットワーク・インターネット、情報探索、情報セキュリティ、情報およびデータ倫理・モラル、著作権、文書作成、表計算、プレゼンテーション、AI・数理データサイエンス、データ分析						
学位授与方針との関係		学位授与の方針：学士課程						
		【知識・理解】	獣医師としての責務を遂行するために，動物の健康・福祉，公衆衛生などに関する高度な専門知識を修得している。					50%
		【思考・判断】	獣医学領域に関わる課題について，生命科学を基礎とした知識と技能を用いて論理的に判断できる。					50%
授業の目的		現代の情報化社会で特に求められるモラルと態度を涵養するとともに、大学における学習ならびに研究活動にコンピュータとネットワークを活用する手法を習得する。また、近年重要視されている数理データサイエンス・AIについて、講義及び演習を通じて理解を深める。						
到達目標		１．インターネット社会で求められる情報倫理・モラルや著作権、個人情報保護、データ倫理などを踏まえ、情報・データを適切に取り扱う態度を身につける。 ２．情報システムの特性やヒューマンエラーに着目した事例を学び、情報セキュリティの重要性を説明できる。 ３．学習や研究に必要な情報の収集ができる。 ４．コンピュータを活用した文書とプレゼンテーション資料を作成できる。 ５．AI・数理データサイエンスについて理解し、表計算ソフトウェア等を活用したデータ分析ができる。						
授業の概要		岩手大学のネットワークおよびインターネットやクラウドサービス等を有効に活用し、今後の学生生活、社会生活に役立つように、基本的なアプリケーションソフトウェアおよび電子メール等の活用についてそれぞれ演習を中心として実施する。 情報社会で被害者・加害者とならないよう、情報セキュリティ、情報倫理・モラル、個人情報保護や、情報・データの取扱についても概説する。 なお、近年重要視されているAI・数理データサイエンスについては、講義で概要を掴んだ後に、表計算ソフトウェアを活用して簡単なデータ分析の演習を行う。						
実務経験の有無と授業内容への反映								
授業の形式		講義および演習						
		遠隔授業への該当（全授業回の半数を超えてオンライン授業を実施する場合） 【しない】						
授業外学修（予習・復習・課題等）への指示		課題を出す場合があるので，担当教員の指示に従うこと。						
詳細計画（各回または週の具体的な授業内容、目標など）								
回 / 週	授業内容			授業外学修（予習・復習・課題等）への指示			備考	
1	ガイダンスおよびユーザー登録			ガイダンスおよびユーザー登録			大沼俊名	
2	情報の基礎、コンピュータの仕組み、メール操作			情報の基礎、コンピュータの仕組み、メール操作			川村暁	
3	コンピュータセキュリティとネットワークセ			コンピュータセキュリティとネットワー			川村暁	

3	セキュリティ、情報倫理・モラル、著作権	クセセキュリティ	
4	ネットワークリテラシー、情報探索、個人情報保護、データ倫理・データセキュリティ	ネットワークリテラシー、情報探索	川村暁
5	AI・数理データサイエンス入門	AI・数理データサイエンス入門	川村暁
6	AI・数理データサイエンス データ分析入門	AI・数理データサイエンス データ分析入門	川村暁
7	学習，研究のための情報収集（１）	学習，研究のための情報収集（１）	大沼
8	学習，研究のための情報収集（２）	学習，研究のための情報収集（２）	大沼
9	文書作成（１）	文書作成（１）	村元隆行
10	文書作成（２）	文書作成（２）	村元隆行
11	計算と統計への応用（１）	計算と統計への応用（１）	塚越英晴
12	計算と統計への応用（２）	計算と統計への応用（２）	塚越英晴
13	プレゼンテーション（１）	プレゼンテーション（１）	大沼俊名
14	プレゼンテーション（２）とまとめ	プレゼンテーション（２）とまとめ	大沼俊名
15			
16			
17			
18			
成績評価の方法と基準	評価方法	割合	評価観点
			関心・意欲 知識・理解 技能・表現 思考・判断
	平常点	50%	
	i カード	0%	
	小テスト	0%	
	課題	50%	
	期末テスト	0%	
評価の基準			
<p>本授業は複数の教員によって行われるため、各教員の評価を合計した点数により評価する。</p> <p>90点以上：秀</p> <p>80点以上：優</p> <p>70点以上：良</p> <p>60点以上：可</p> <p>60点未満：不可</p>			
履修における留意点	<p>授業時間内にインターネットで遊んだりゲームをしたりしないこと。</p> <p>演習室内で飲食をしないこと。</p> <p>学生証を持参すること。</p>		
教科書 / 教材	<p>岩手大学情報教育教科書編集委員会、情報基礎 コンピュータの基本操作と情報活用術 第5版、学術図書出版社、2022年、9784780610024</p>		
参考文献			

# 履修の手引き

令和7年度（2025年度）入学生用

## 【 内 容 】

- I 科目履修に当たって知っておくべきこと
- II 教養教育について（獣医学部を除く）
- III 専門教育について【人文社会科学部】
- IV 専門教育について【教育学部】
- V 専門教育について【理工学部】
- VI 専門教育について【農学部】
- VII 共通教育・専門教育について【獣医学部】
- VIII 教育職員免許状・各種資格の取得方法
- IX 国際教育科目について
- X その他プログラムについて
- XI 関係法規等



国立大学法人

岩手大学  
IWATE UNIVERSITY

岩手大学 教養教育科目一覧

参考:開設授業科目要件区分／標準履修学年・時期早見表

履修区分			科目名 (※印は集中講義形式で開講)	単位数	要件区分	標準履修 学年・時期	備考
技法知 科目	外国語 科目	英語	英語総合Ⅰ(初級)	1	選択	1	履修希望調査及び大学入学共通テストとオックスフォード・プレースメント・テストによりクラス分けを行う。 (掲示により確認すること)
			英語総合Ⅰ(中級)	1	選択	1	
			英語総合Ⅰ(上級)	1	選択	1	
			英語総合Ⅱ(初級)	1	選択	1	
			英語総合Ⅱ(中級)	1	選択	1	
			英語総合Ⅱ(上級)	1	選択	1	
			英語コミュニケーションⅠ(初級)	1	選択	1	
			英語コミュニケーションⅠ(中級)	1	選択	1	
			英語コミュニケーションⅠ(上級)	1	選択	1	
			英語コミュニケーションⅡ(初級)	1	選択	1	
			英語コミュニケーションⅡ(中級)	1	選択	1	
			英語コミュニケーションⅡ(上級)	1	選択	1	
		英語以外	英語発展A(TOEIC 初級)	1	選択	2 前	
			英語発展B(TOEIC 中級)	1	選択	2 後	
			英語発展C(実践英語)	1	選択	2 前	
			英語発展D(科学英語)	1	選択	2 後	
		英語以外	初級ドイツ語(入門)	1	選択	1	履修希望調査によりクラス分けを行う。 (掲示により確認すること)
			初級ドイツ語(発展)	1	選択	1	
			中級ドイツ語	1	選択	1 後	
			初級フランス語(入門)	1	選択	1	
			初級フランス語(発展)	1	選択	1	
			中級フランス語	1	選択	1 後	
			初級ロシア語(入門)	1	選択	1	
			初級ロシア語(発展)	1	選択	1	
			中級ロシア語	1	選択	1 後	
			初級中国語(入門)	1	選択	1	
			初級中国語(発展)	1	選択	1	
			中級中国語	1	選択	1 後	
			初級韓国語(入門)	1	選択	1	
			初級韓国語(発展)	1	選択	1	
			中級韓国語	1	選択	1 後	
			上級日本語A	1	選択	1 前	
			上級日本語B	1	選択	1 前	
			上級日本語C	1	選択	1 前	
			上級日本語D	1	選択	1 前	
			上級日本語E	1	選択	1 後	
			上級日本語F	1	選択	1 後	
			上級日本語G	1	選択	1 後	
			上級日本語H	1	選択	1 後	
	健康・スポーツ 科目		健康・スポーツA	1	必修	1 前	
			健康・スポーツB	1	必修／選択	1 後	
			健康・スポーツC(シーズン)	※ 1	選択	1 後	
	情報科目		情報基礎A	2	必修	1 前	学部毎に学科等の単位でのクラス編成または学籍番号でのクラス編成を行う。 (時間割及び掲示により確認すること)
			情報基礎B	2	選択	1 後	
学問知 科目	人文社会科学・ 教育学領域科目		思想	2	選択	1・2	教育学部生は、時間割を確認の上、「憲法」を1年前期に履修すること。
			芸術学	2	選択	1・2	
			文学	2	選択	1・2	
			言語学	2	選択	1・2	
			歴史学	2	選択	1・2	
			法学	2	選択	1・2	
			憲法	2	必修／選択	1・2	
			政治学	2	選択	1・2	
			経済学・経営学	2	選択	1・2	
			社会学	2	選択	1・2	
			教育学	2	選択	1・2	
			心理学	2	選択	1・2	

履修区分		科目名 (※印は集中講義形式で開講)	単位数	要件区分	標準履修 学年・時期	備考
学問知 科目	理学・工学領域科目	物質化学	2	選択	1・2	
		自然科学	2	選択	1・2	
		材料科学	2	選択	1・2	
		電気電子工学	2	選択	1・2	
		エネルギー科学	2	選択	1・2	
		数理情報科学	2	選択	1・2	
		機械科学	2	選択	1・2	
		環境・防災学	2	選択	1・2	
		メディア情報学	2	選択	1・2	
	農学領域科目	農学基礎	2	選択	1・2	
		食品健康科学	2	選択	1・2	
		分子生物機能科学	2	選択	1・2	
		分子生命医科学	2	選択	1・2	
		農業環境工学	2	選択	1・2	
		森林科学	2	選択	1・2	
		動物科学	2	選択	1・2	
		水産学基礎	2	選択	1・2	
		獣医学A	2	選択	1・2	
探究知 科目	環境科目	環境A	2	選択	1・2 前	
		環境B	2	選択	1・2 前	
		環境C	2	選択	1・2 前	
		環境D	2	選択	1・2 後	
		環境E	2	選択	1・2 後	
		環境F	2	選択	1・2 後	
	地域関連 科目	地域 科目	現代社会をみる視角	2	選択	1・2
			官沢賢治の世界	2	選択	1・2
			危機管理と復興 ※	2	選択	1・2
			地場産業・企業論 ※	2	選択	1・2
			ボランティアとリーダーシップ ※	2	選択	1・2
			地域協創入門	2	選択	1・2
			社会連携学A	2	選択	1・2
			社会連携学B	2	選択	1・2
			地域協創A	1	選択	1・2
			地域協創B	1	選択	1・2
			地域協創C	1	選択	1・2
			地域協創D	1	選択	1・2
		地域 科目	地域協創E	1	選択	1・2
			地域協創F	1	選択	1・2
			地域協創G	1	選択	1・2
			地域協創H	1	選択	1・2
			地域協創I	1	選択	1・2
			キャリアを考える A	2	選択	1・2
			キャリアを考える B	2	選択	1・2
			日本事情 A	2	選択	1・2
			日本事情 B	2	選択	1・2
			多文化コミュニケーションA	2	選択	1・2
			多文化コミュニケーションB	2	選択	1・2
実践知 科目	地域課題 演習科目	地域防災課題演習	2	選択	2	
		地域グローバル課題演習	2	選択	2	
		地域クリエイティブ課題演習	2	選択	2	
		地域課題演習 A	2	選択	2	
		地域課題演習 B	2	選択	2	
		地域課題演習 C	2	選択	2	
		地域課題演習 D	2	選択	2	
		インターカレッジ・フィールド実践演習	2	選択	2	
		キャリアデザイン実践演習	2	選択	2	
		海外研修-世界から地域を考える- ※	2	選択	2	

注1:各学部履修単位数及び履修方法を確認すること。

注2:履修にあたっては前期のみまたは後期のみの開設受業科目や年度により開設しない科目があるので、時間割を確認すること。

なお、時間割には、学年・学部・学科等の単位で履修できる枠(時間割枠)があるので、注意すること。

注3:科目名の※印は集中講義形式での開講を示しているが、これ以外でも集中講義形式で開講する場合がある。

## 5 各学部の修得すべき単位数と履修の注意点

### 人文社会科学部

教養教育科目の授業科目区分及び単位数等は前述のとおりですが、修得すべき単位数及び履修方法については、以下のようになりますので、熟読のうえ履修してください。

表Ⅱ a 教養教育科目の修得すべき単位数

区 分				人文社会科学部		
				必修 単位	選択	
					(選択可能)	単位
教 養 教 育 科 目	技法知科目	外国語科目	英語	8	(2)	7 「Ⅲ 選択」 参照
			英語以外			
			日本語			
		健康・スポーツ科目		1	(2)	
		情報科目		2	(2)	
	技法知科目修得単位数計			11		
	学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目		2	(2)	
		理学・工学領域科目		2	(2)	
		農学領域科目		2	(2)	
		学問知科目修得単位数計			6	
	探究知科目	環境科目		4		
		地域関連科目	地域科目		(2)	
	実践知科目		地域課題演習科目			
探究知・実践知科目取得単位数合計			4			
教養教育科目修得単位数計			28			

- (注) 1. 各区分から修得すべき単位数以上を履修すること。  
 2. 「選択可能」欄の数字は、教養教育科目の修得すべき単位数のうち、各科目から「選択」として修得できる上限単位数を表す。  
 3. 上記の表だけで判断せず、下の説明も確認すること。

#### I 技法知科目 (11単位)

##### 必修単位 (11単位)

##### ① 外国語科目 (英語・英語以外の外国語) (8単位)

英語、英語以外の外国語を次の a～c のいずれか1つの履修形態を選択し修得すること。

##### a. 英語8単位

英語総合Ⅰ・Ⅱを各2単位、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱを各2単位、合計8単位

##### b. 英語4単位、英語以外の外国語4単位、計8単位

英語総合Ⅰ・Ⅱを各1単位、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱを各1単位、計4単位及び英語以外の外国語から1外国語を選択し、初級(入門)を2単位、初級(発展)を2単位、計4単位、合計8単位

##### c. 英語以外の外国語8単位

1外国語を選択し、初級(入門)を2単位、初級(発展)を2単位、中級を4単位、計8単位

##### ② 健康・スポーツ科目 (1単位)

健康・スポーツA (1単位) を修得すること。

③ 情報科目（2単位）  
情報基礎A（2単位）を修得すること。

II 学問知科目、探究知科目及び実践知科目（10単位）

必修単位（10単位）

- ① 「人文社会科学・教育学領域科目」から2単位を修得すること。
- ② 「理学・工学領域科目」から2単位を修得すること。
- ③ 「農学領域科目」から2単位を修得すること。
- ④ 「環境科目」，「地域科目」，「地域課題演習科目」から4単位を修得すること。

※III 選択（7単位）

次の区分から7単位を修得すること。なお、区分ごとに修得できる上限があるので注意すること。

また、いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換制度に基づき、他大学で修得した科目を含むことができる。

- ① 「外国語科目」（「英語発展」のみ。2単位まで）
- ② 「健康・スポーツ科目」（2単位まで）  
健康・スポーツB，健康・スポーツC（シーズン）は、人数制限があるので注意すること。
- ③ 「情報科目」（2単位まで）
- ④ 「人文社会科学・教育学領域科目」（2単位まで）
- ⑤ 「理学・工学領域科目」（2単位まで）
- ⑥ 「農学領域科目」（2単位まで）
- ⑦ 「地域科目」，「地域課題演習科目」（2単位まで）

－履修上の注意事項－

- 1 「外国語科目」，「健康・スポーツ科目」，「情報科目」は1年次に、それぞれ決められた時間帯で履修すること。また「外国語科目（英語発展）」は2年次以降に履修すること。
- 2 教育職員免許状取得希望者は、日本国憲法として「人文社会科学・教育学領域科目」で**憲法2単位，健康・スポーツ科目2単位修得**する必要があるので注意すること。
- 3 履修については、本冊子及び授業時間割表を参考にし、間違いのないよう注意すること。  
なお、同一名称の授業科目は重複して履修できない。ただし、日本語以外の外国語科目は重複して履修できる。  
また、履修にあたっては前期のみ又は後期のみの開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意すること。
- 4 外国語科目は、入学時に決定する決定語学のとおり履修すること（掲示により確認すること）。  
なお、人文社会科学部の学生は、前期末に行う外国語科目の変更希望調査により、後期に履修する決定語学の変更を許可される場合がある。ただし、決定語学の変更は、1年次のみに認められ、2年次以降の変更はできないので、変更の手続きについては掲示を確認すること。

## 教 育 学 部

教養教育科目の授業科目区分及び単位数等は前述のとおりですが、修得すべき単位数及び履修方法については、以下のようになりますので、熟読のうえ履修してください。

表Ⅱ b 教養教育科目の修得すべき単位数

区 分				教 育 学 部			
				必修 単位	選択		
					(選択可能)	単位	
教 養 教 育 科 目	技法知科目	外国語科目	英語	4	(2)	4 「Ⅲ 選択」 参照	
			英語以外	4			
			日本語				
		健康・スポーツ科目		2	(1)		
		情報科目		2	(2)		
	技法知科目修得単位数計			12			
	学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目（憲法）		2			
		人文社会科学・教育学領域科目		2	(2)		
		理学・工学領域科目		2	(2)		
		農学領域科目		2	(2)		
	学問知科目修得単位数計			8			
	探究知科目	環境科目		4			
		地域関連科目	地域科目		(2)		
	実践知科目		地域課題演習科目				
探究知・実践知科目取得単位合計数			4				
教養教育科目修得単位数計				28			

- (注) 1. 各区分から修得すべき単位数以上を履修すること。  
 2. 「選択可能」欄の数字は、教養教育科目の修得すべき単位数のうち、各科目から「選択」として修得できる上限単位数を表す。  
 3. 上記の表だけで判断せず、下の説明も確認すること。

### I 技法知科目（12単位）

#### 必修単位（12単位）

##### ① 外国語科目（英語）（4単位）

英語総合Ⅰ・Ⅱを各1単位、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱを各1単位、合計4単位を修得すること。

##### ② 外国語科目（英語以外の外国語）（4単位）

1外国語を選択し、初級（入門）を2単位、初級（発展）を2単位、合計4単位を修得すること。

##### ③ 健康・スポーツ科目（2単位）

健康・スポーツA（1単位）及び健康・スポーツB（1単位）を修得すること。

##### ④ 情報科目（2単位）

情報基礎A（2単位）を修得すること。



## Ⅱ 学問知科目、探究知科目及び実践知科目（12単位）

### 必修単位（12単位）

- ① 「人文社会科学・教育学領域科目」から憲法（2単位）を修得すること。
- ② 「人文社会科学・教育学領域科目」から憲法を除き2単位を修得すること。
- ③ 「理学・工学領域科目」から2単位を修得すること。
- ④ 「農学領域科目」から2単位を修得すること。
- ⑤ 「環境科目」、「地域科目」、「地域課題演習科目」から4単位を修得すること。

## ※Ⅲ 選択（4単位）

次の区分から4単位を修得すること。なお、区分ごとに修得できる上限があるので注意すること。

また、いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換制度に基づき、他大学で修得した科目を含むことができる。

- ① 「外国語科目」（「英語発展」のみ。2単位まで）
- ② 「健康・スポーツ科目」（1単位まで）  
健康・スポーツC（シーズン）は、人数制限があるので注意すること。
- ③ 「情報科目」（2単位まで）
- ④ 「人文社会科学・教育学領域科目」（憲法を除く）（2単位まで）
- ⑤ 「理学・工学領域科目」（2単位まで）
- ⑥ 「農学領域科目」（2単位まで）
- ⑦ 「地域科目」、「地域課題演習科目」（2単位まで）

### －履修上の注意事項－

- 1 「外国語科目」、「健康・スポーツ科目」、「情報科目」は1年次に、それぞれ決められた時間帯で履修すること。また、「外国語科目（英語発展）」は2年次以降に履修すること。
- 2 履修については、本冊子及び授業時間割表を参考にし、間違いのないよう注意すること。  
なお、同一名称の授業科目は重複して履修できない。ただし、日本語以外の外国語科目は重複して履修できる。  
また、履修にあたっては前期のみ又は後期のみの開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意すること。
- 3 外国語科目は、入学時に決定する決定語学のとおり履修すること（掲示により確認すること）。  
決定語学は変更できない。

## 理 工 学 部

教養教育科目の授業科目区分及び単位数等は前述のとおりですが、修得すべき単位数及び履修方法については、以下のようになりますので、熟読のうえ履修してください。

表Ⅱ c 教養教育科目の修得すべき単位数

区 分				理 工 学 部		
				必修 単位	選択	
					(選択可能)	単位
教養教育科目	技法知科目	外国語科目	英語	8	(2)	7 「Ⅲ 選択」 参照
			英語以外			
			日本語			
		健康・スポーツ科目		1	(1)	
		情報科目		2	(2)	
	技法知科目修得単位数計			11		
	学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目		2	(2)	
		理学・工学領域科目		2	(2)	
		農学領域科目		2	(2)	
		学問知科目修得単位数計			6	
	探究知科目	環境科目		4		
		地域関連科目	地域科目		(2)	
実践知科目	地域課題演習科目					
探究知・実践知科目取得単位合計数			4			
教養教育科目修得単位数計			28			

- (注) 1. 各区分から修得すべき単位数以上を履修すること。  
 2. 「選択可能」欄の数字は、教養教育科目の修得すべき単位数のうち、各科目から「選択」として修得できる上限単位数を表す。  
 3. 上記の表だけで判断せず、下の説明も確認すること。

### I 技法知科目（11単位）

#### 必修単位（11単位）

##### ① 外国語科目（英語・英語以外の外国語）（8単位）

英語、英語以外の外国語を次の a～b のどちらか 1 つの履修形態を選択し修得すること。

##### a. 英語 8 単位

英語総合Ⅰ・Ⅱを各 2 単位、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱを各 2 単位、合計 8 単位

##### b. 英語 4 単位、英語以外の外国語 4 単位、計 8 単位

英語総合Ⅰ・Ⅱを各 1 単位、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱを各 1 単位、計 4 単位及び英語以外の外国語から 1 外国語を選択し、初級（入門）を 2 単位、初級（発展）を 2 単位、計 4 単位、合計 8 単位

##### ② 健康・スポーツ科目（1単位）

健康・スポーツ A（1 単位）を修得すること。

##### ③ 情報科目（2 単位）

情報基礎 A（2 単位）を修得すること。

## Ⅱ 学問知科目、探究知科目及び実践知科目（10単位）

### 必修単位（10単位）

- ① 「人文社会科学・教育学領域科目」から2単位を修得すること。
- ② 「理学・工学領域科目」から2単位を修得すること。
- ③ 「農学領域科目」から2単位を修得すること。
- ④ 「環境科目」，「地域科目」，「地域課題演習科目」から4単位を修得すること。

## ※Ⅲ 選択（7単位）

次の区分から7単位を修得すること。なお、区分ごとに修得できる上限があるので注意すること。

また、いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換制度に基づき、他大学で修得した科目を含むことができる。

- ① 「外国語科目」（「英語発展」のみ。2単位まで）
- ② 「健康・スポーツ科目」（1単位まで）  
健康・スポーツB，健康・スポーツC（シーズン）は、人数制限があるので注意すること。
- ③ 「情報科目」（2単位まで）
- ④ 「人文社会科学・教育学領域科目」（2単位まで）
- ⑤ 「理学・工学領域科目」（2単位まで）
- ⑥ 「農学領域科目」（2単位まで）
- ⑦ 「地域科目」，「地域課題演習科目」（2単位まで）

### －履修上の注意事項－

- 1 「外国語科目」，「健康・スポーツ科目」，「情報科目」は1年次に、それぞれ決められた時間帯で履修すること。また，「外国語科目（英語発展）」は2年次以降に履修すること。
- 2 教育職員免許状取得希望者は、日本国憲法として「人文社会科学・教育学領域科目」で**憲法2単位、健康・スポーツ科目2単位修得**する必要があるので注意すること。
- 3 履修については、本冊子及び授業時間割表を参考にし、間違いのないよう注意すること。  
なお、同一名称の授業科目は重複して履修できない。ただし、日本語以外の外国語科目は重複して履修できる。  
また、履修にあたっては前期のみ又は後期のみの開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意すること。
- 4 外国語科目は、入学時に決定する決定語学のとおり履修すること（掲示により確認すること）。  
決定語学は変更できない。

## 農 学 部

教養教育科目の授業科目区分及び単位数等は前述のとおりですが、修得すべき単位数及び履修方法については、以下のようになりますので、熟読のうえ履修してください。

表Ⅱ d 教養教育科目の修得すべき単位数

区 分				農 学 部		
				必修 単位	選択	
					(選択可能)	単位
教 養 教 育 科 目	技法知科目	外国語科目	英語	8	(2)	7 「Ⅲ 選択」 参照
			英語以外			
			日本語			
		健康・スポーツ科目		1	(2)	
		情報科目		2	(2)	
	技法知科目修得単位数計			1 1		
	学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目		2	(2)	
		理学・工学領域科目		2	(2)	
		農学領域科目		2	(2)	
	学問知科目修得単位数計			6		
	探究知科目	環境科目		4		
		地域関連科目	地域科目		(2)	
	実践知科目		地域課題演習科目			
探究知・実践知科目取得単位合計数			4			
教養教育科目修得単位数計			2 8			

- (注) 1. 各区分から修得すべき単位数以上を履修すること。  
 2. 「選択可能」欄の数字は、教養教育科目の修得すべき単位数のうち、各科目から「選択」として修得できる上限単位数を表す。  
 3. 上記の表だけで判断せず、下の説明も確認すること。

### I 技法知科目 (11単位)

必修単位 (11単位)

#### ① 外国語科目 (英語・英語以外の外国語) (8単位)

英語、英語以外の外国語を次の a～b のどちらか 1 つの履修形態を選択し修得すること。

##### a. 英語 8 単位

英語総合Ⅰ・Ⅱを各 2 単位、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱを各 2 単位、合計 8 単位

##### b. 英語 4 単位、英語以外の外国語 4 単位、計 8 単位

英語総合Ⅰ・Ⅱを各 1 単位、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱを各 1 単位、計 4 単位及び英語以外の外国語から 1 外国語を選択し、初級 (入門) を 2 単位、初級 (発展) を 2 単位、計 4 単位、合計 8 単位

#### ② 健康・スポーツ科目 (1単位)

健康・スポーツ A (1単位) を修得すること。

#### ③ 情報科目 (2単位)

情報基礎 A (2単位) を修得すること。

## Ⅱ 学問知科目、探究知科目及び実践知科目（10単位）

### 必修単位（10単位）

- ① 「人文社会科学・教育学領域科目」から2単位を修得すること。
- ② 「理学・工学領域科目」から2単位を修得すること。
- ③ 「農学領域科目」から2単位を修得すること。
- ④ 「環境科目」、「地域科目」、「地域課題演習科目」から4単位を修得すること。

## ※Ⅲ 選択（7単位）

次の区分から7単位を修得すること。なお、区分ごとに修得できる上限があるので注意すること。

また、いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換制度に基づき、他大学で修得した科目を含むことができる。

- ① 「外国語科目」（「英語発展」のみ。2単位まで）
- ② 「健康・スポーツ科目」（2単位まで）  
健康・スポーツB、健康・スポーツC（シーズン）は、人数制限があるので注意すること。
- ③ 「情報科目」（2単位まで）
- ④ 「人文社会科学・教育学領域科目」（2単位まで）
- ⑤ 「理学・工学領域科目」（2単位まで）
- ⑥ 「農学領域科目」（2単位まで）
- ⑦ 「環境科目」、「地域科目」、「地域課題演習科目」から4単位を修得すること。

### －履修上の注意事項－

- 1 「外国語科目」、「情報科目」、「健康・スポーツ科目」は1年次に、それぞれ決められた時間帯で履修すること。また、「外国語科目（英語発展）」は2年次以降に履修すること。
- 2 教育職員免許状取得希望者は、日本国憲法として「人文社会科学・教育学領域科目」で**憲法2単位、健康・スポーツ科目2単位修得**する必要があるので注意すること。
- 3 履修については、本冊子及び授業時間割表を参考にし、間違いのないよう注意すること。  
なお、同一名称の授業科目は重複して履修できない。ただし、日本語以外の外国語科目は重複して履修できる。  
また、履修にあたっては前期のみ又は後期のみの開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意すること。
- 4 外国語科目は、入学時に決定する決定語学のとおり履修すること（掲示により確認すること）。  
決定語学は変更できない。

2. 学生が取得すべき単位数（共通教育及び専門教育）

区 分			必修単位数
共通教育科目	大学教育導入科目群		2
	スポーツ健康科目群		2
	外国語科目群		6
	人文社会科学科目群		8
	配置大学特色科目群	理数系基礎	4
		理数系アドバンス	8
	計		3 0
専門教育科目	基礎獣医学科目	基礎獣医学科目群	4 0
		病態獣医学科目群	2 5
		応用獣医学科目群	2 1
	実証獣医学科目	小動物臨床獣医学科目群	3 4
		大動物臨床獣医学科目群	1 6
	選択科目		5
	専修科目		1 8
	計		1 5 9
合計		1 8 9	

表 共通教育科目の修得すべき単位数

区分		科目名	単 位 数	要 件	開講学期				卒業要件
					1 年次		2 年次		
					前	後	前	後	
大学教育導入科目群	基礎ゼミナール	◎獣医学基礎ゼミナール	2	必	*				必修科目
スポーツ健康科目群	スポーツ健康・基盤	◎健康・スポーツA	1	必	*				必修科目
		健康・スポーツB	1	選択 必修		*			選択 1 単位修得
	スポーツ健康・発展	健康・スポーツC（シーズン）	1			*			
外国語科目群	基礎英語	◎英語総合Ⅰ	1	必	*				必修科目
		◎英語総合Ⅱ	1	必		*			
		◎英語総合Ⅲ	1	必			*		
		◎英語コミュニケーションⅠ	1	必	*				
		◎英語コミュニケーションⅡ	1	必		*			
		◎英語コミュニケーションⅢ	1	必				*	
人文社会科学科目群	人文社会科学	思想	2	選	*	*	*	*	選択 6 単位修得
		芸術学	2	選	*	*	*	*	
		文学	2	選	*	*	*	*	
		言語学	2	選	*	*	*	*	
		歴史学	2	選	*	*	*	*	
		法学	2	選	*	*	*	*	
		憲法	2	選	*	*	*	*	
		政治学	2	選	*	*	*	*	
		経済学・経営学	2	選	*	*	*	*	
		社会学	2	選	*	*	*	*	
		教育学	2	選	*	*	*	*	
		心理学	2	選	*	*	*	*	
		持続可能な環境・社会	環境A	2	選	*		*	
	環境B		2	選	*		*		
	環境C		2	選	*		*		
	環境D		2	選		*		*	
	環境E		2	選		*		*	
	環境F		2	選		*		*	
	現代社会をみる視角		2	選	*	*	*	*	
	宮沢賢治の世界		2	選	*	*	*	*	
	危機管理と復興		2	選	*	*	*	*	
	地場産業・企業論		2	選	*	*	*	*	
	ボランティアとリーダーシップ		2	選	*	*	*	*	
	地域協創入門		2	選	*	*	*	*	
	社会連携学A		2	選	*	*	*	*	
	社会連携学B		2	選	*	*	*	*	
	地域協創A		1	選	*	*	*	*	
	地域協創B		1	選	*	*	*	*	
	地域協創C		1	選	*	*	*	*	
	地域協創D		1	選	*	*	*	*	
	地域協創E		1	選	*	*	*	*	
	地域協創F		1	選	*	*	*	*	
	地域協創G		1	選	*	*	*	*	
	地域協創H		1	選	*	*	*	*	
	地域協創I		1	選	*	*	*	*	
	キャリアを考えるA		2	選	*	*	*	*	
	キャリアを考えるB		2	選	*	*	*	*	
	日本事情A		2	選	*	*	*	*	
	日本事情B		2	選	*	*	*	*	
	多文化コミュニケーションA		2	選	*	*	*	*	
	多文化コミュニケーションB	2	選	*	*	*	*		

表 共通教育科目の修得すべき単位数

区分		科目名	単位数	要件	開講学期				卒業要件
					1 年次		2 年次		
					前	後	前	後	
配置大学 特色科目群	理数系基礎	◎獣医細胞生物学	2	必	*				必修 4 単位 選択 8 単位 (計12単位) 修得
		基礎生物学実験	1	選	*				
		◎情報基礎A	2	必	*				
		情報基礎B	2	選		*			
	理数系アドバンス	物質科学	2	選	*	*	*	*	
		自然科学	2	選	*	*	*	*	
		材料科学	2	選	*	*	*	*	
		電気電子工学	2	選	*	*	*	*	
		エネルギー科学	2	選	*	*	*	*	
		数理情報科学	2	選	*	*	*	*	
		機械科学	2	選	*	*	*	*	
		環境・防災学	2	選	*	*	*	*	
		メディア情報学	2	選	*	*	*	*	
		農学基礎	2	選	*	*	*	*	
		食品健康科学	2	選	*	*	*	*	
		分子生物機能科学	2	選	*	*	*	*	
		分子生命医科学	2	選	*	*	*	*	
		農業環境工学	2	選	*	*	*	*	
		森林科学	2	選	*	*	*	*	
		動物科学	2	選	*	*	*	*	
		水産学基礎	2	選	*	*	*	*	
		データ分析演習	1	選			*		
		統計的機械学習実践	2	選				*	

- 備考 (1) ◎印の授業科目は必修とする。
- (2) 獣医学部以外の学部の教養教育の授業科目は他学科科目として履修できるが、卒業要件単位数に参入しない。
- (3) 健康・スポーツCは2月～3月頃の集中開講科目。



I 大学教育導入科目群（2単位）

必修単位（2単位）

獣医学基礎ゼミナール（2単位）を修得すること。

II スポーツ健康科目群（2単位）

必修単位（1単位）

健康・スポーツA（1単位）を修得すること。

選択（必修）単位（1単位）

次の科目から1科目（1単位）を修得すること。

健康・スポーツB（1単位）

健康・スポーツC（シーズン）（1単位）

III 外国語科目群（6単位）

必修単位（6単位）

次の全科目の6単位を修得すること。

① 英語総合Ⅰ（1単位）

② 英語コミュニケーションⅠ（1単位）

③ 英語総合Ⅱ（1単位）

④ 英語コミュニケーションⅡ（1単位）

⑤ 英語総合Ⅲ（1単位）

⑥ 英語コミュニケーションⅢ（1単位）

IV 人文社会科学科目群（8単位）

選択（必修）単位（8単位）

次の2つの区分から8単位を修得すること。

なお、区分ごとに修得しなければならない単位数があるので注意すること。

①「人文社会科学」から6単位

②「持続可能な環境・社会」から2単位

V 配置大学特色科目群（12単位）

必修単位（4単位）

次の全科目の4単位を修得すること。

「理数系基礎」の獣医細胞生物学（2単位）

「理数系基礎」の情報基礎A（2単位）

選択（必修）単位（8単位）

次の2つの区分から8単位を修得すること。

①「理数系基礎（必修科目を除く）」

②「理数系アドバンス」

—履修上の注意事項—

- 1 共通教育科目は、1・2年次の定められた時間帯に履修すること。
- 2 履修については、本冊子及び授業時間割表を参考にし、間違いのないよう注意すること。

なお、同一名称の授業科目は重複して履修できない。

また、履修にあたっては前期のみ又は後期のみの開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意すること。

# 岩手大学教学マネジメントセンター規則

令和 2 年 9 月 2 4 日 制 定

令和 7 年 2 月 1 0 日 最終改正

## (趣旨)

第 1 条 この規則は、国立大学法人岩手大学学則（以下「学則」という。）第 7 条の規定に基づき、岩手大学教学マネジメントセンター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

## (目的)

第 2 条 センターは、他部局と連携・協力し、学修者本位の教育を行うための改善に取り組むことを目的とする。

## (業務)

第 3 条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- 一 教育の実施に係る調整及び改善に関すること。
- 二 学修成果や教育成果の把握・可視化に関すること。
- 三 ファカルティ・ディベロップメントに関すること。
- 四 教学 I R に関すること。
- 五 学修支援に関すること。
- 六 その他前条の目的を達成するために必要な業務に関すること。

2 センターの業務を行う際には、他部局と連携・協力を図るものとする。

## (室)

第 4 条 センターに、前条第 4 号及び第 5 号に係る業務を行うため、次に掲げる室を置く。

- 一 教学 I R 室
- 二 学修支援室

2 前項に定める室に関し必要な事項は、別に定める。

## (職員)

第 5 条 センターに、学則第 1 4 条の 2 の規定に基づきセンター長を置く。

2 前項に定めるほか、次に掲げる職員を置く。

- 一 副センター長
- 二 専任教員
- 三 その他センター長が必要と認めた者

(センター長)

第6条 センター長は、センターの業務及び運営を統括する。

2 センター長は、教育を担当する理事又は副学長をもって充てる。

(副センター長)

第7条 副センター長は、センター長を補佐する。

2 副センター長は、教育を担当する理事又は副学長の下に置く特別補佐をもって充てる。

(専任教員)

第8条 専任教員は、センターの業務を処理する。

(庶務)

第9条 センターの庶務は、学務課において処理する。

(雑則)

第10条 この規則に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、令和2年10月1日から施行する。

2 この規則の施行の日（以下「施行日」という。）の前日までに採用された「岩手大学教員の任期に関する規則第2条」が適用される教員については、当該教員の任期が終了するまでの間、本規則第5条第2項第2号に定める職員とし、本規則第3条に定める業務については、施行日の前日までの「教育推進機構規則第3条及び第13条」を適用する。

附 則

この規則は、令和7年2月10日から施行する。

## 岩手大学情報基盤センター規則

平成 26 年 4 月 1 日 制 定  
令和 2 年 9 月 24 日 最終改正

### (趣旨)

第 1 条 この規則は、国立大学法人岩手大学学則第 6 条の規定に基づき、岩手大学情報基盤センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

### (目的)

第 2 条 センターは、岩手大学（以下「本学」という。）のキャンパス情報ネットワークを含む基盤的情報システムの運用管理を行うとともに、本学における教育、研究及び運営に係る業務を円滑に遂行するため、情報教育、情報技術の研究及び各部局等における情報化の支援を行うことを目的とする。

### (業務)

第 3 条 センターは、前条の目的を達成するため、次に掲げる業務を行う。

- 一 情報ネットワークの整備及び運用管理に関すること。
- 二 認証基盤システムの整備及び運用管理に関すること。
- 三 教育・研究用計算機システムの整備及び運用管理に関すること。
- 四 情報処理システム及びネットワークの研究・開発に関すること。
- 五 情報教育に関すること。
- 六 教材開発及びマルチメディア環境を活用した教育活動の支援に関すること。
- 七 遠隔教育環境の整備拡充及び遠隔教育活動の支援に関すること。
- 八 情報資産の管理に関すること。
- 九 事務用情報システムの技術支援及び運用管理に関すること。
- 十 本学の情報セキュリティに関すること。
- 十一 本学の情報化に係る企画立案の支援及び実施に関すること。
- 十二 本学の業務・システム最適化に関すること。
- 十三 事務効率化のための情報化支援に関すること。
- 十四 本学と地域、他大学等との情報通信技術を活用した連携、その利用及び技術支援に関すること。
- 十五 その他第 2 条の目的を達成するために必要な業務に関すること。

### (組織)

第 4 条 センターに、次に掲げる職員を置く。

- 一 センター長
- 二 副センター長
- 三 専任教員
- 四 その他の職員（以下「センター職員」という。）

### (センター長)

第 5 条 センター長は、センター全般の業務及び運営を統括する。

- 2 センター長は、情報を担当する理事、副学長又は岩手大学の専任教授のうちから学長が指名する者をもって充てる。
- 3 前項の専任教授のうちから指名されたセンター長の任期は、2 年とし、再任を妨げない。

### (副センター長)

第 6 条 副センター長は、教育研究システム担当と事務システム担当を置き、センター長の職を補佐する。

- 2 副センター長は、センターの専任教員又はセンター職員のうちからセンター長が推薦し、学長が任命する。
- 3 副センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第7条 専任教員は、センターの業務を処理する。

(センター職員)

第8条 センター職員は、センターの業務に従事する。

(情報基盤センター会議)

第9条 センターの運営に関する事項を審議するため、情報基盤センター会議を置く。

- 2 情報基盤センター会議に関する規則は、別に定める。
- 3 センターの運営に関する事項のうち、部局等からの意見を聴取する必要がある場合は、岩手大学情報基盤委員会において審議する。

(庶務)

第10条 センターの庶務は、学術情報課において処理する。

(雑則)

第11条 この規則に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和2年10月1日から施行する。

# 岩手大学教務委員会規則

令和2年9月24日 制 定

令和7年2月27日 最終改正

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人岩手大学全学委員会に関する規則第2条の規定に基づき、岩手大学教務委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- 一 教育の実施（内部質保証を含む。）に関すること
- 二 教育の評価に関すること。
- 三 教育の改善にすること。
- 四 学位の授与に関すること。
- 五 教育課程の編成に関すること。
- 六 大学間連携に関すること。
- 七 高大連携に関すること。
- 八 その他教育に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- 一 教育を担当する理事又は副学長
- 二 国際教育センター長
- 三 地域協創教育センター長
- 四 各学部の副学部長 各1名
- 五 各学部教務（学務）委員会委員長
- 六 教学マネジメントセンター副センター長
- 七 教学マネジメントセンター専任教員
- 八 学務部長
- 九 その他委員長が必要と認めた者

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、教育を担当する理事又は副学長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。ただし、第3条第4号及び第5号委員のうち各学部1名以上の出席がなければ会議を開催することができない。なお、第3条第4号及び第5号委員の代理出席を認めるものとする。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を委員会に出席させ、その意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第7条 委員会に、特定の事項を審議するため、専門委員会を置く。

2 前項の専門委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、学務課において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、令和2年10月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和6年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和7年4月1日から施行する。



## 岩手大学教養教育専門委員会規則

令和 2 年 1 0 月 1 日 制 定

令和 7 年 2 月 2 8 日 最終改正

### (趣旨)

第 1 条 この規則は、岩手大学教務委員会規則第 7 条の規定に基づき、岩手大学教養教育専門委員会（以下「専門委員会」という。）に関し、必要な事項を定める。

### (審議事項)

第 2 条 専門委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- 一 教養教育の内容及び実施方法に関すること。
- 二 教養教育の評価に関すること。
- 三 教養教育の改善に関すること。
- 四 その他教養教育に関すること。

### (科目委員会)

第 3 条 専門委員会に、特定の事項を審議するために次に掲げる科目委員会を置く。

- 一 外国語科目委員会
  - 二 健康・スポーツ科目委員会
  - 三 情報科目委員会
  - 四 環境科目委員会
- 2 前項各号に定める科目委員会に委員長を置き、国立大学法人岩手大学学則第 1 1 条第 1 項に定める教員（以下「本学の教員」という。）のうち、教授及び准教授の中から岩手大学教務委員会委員長が指名する。
- 3 科目委員会に関し必要な事項は、別に定める。

### (組織)

第 4 条 専門委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- 一 委員長
- 二 科目委員会委員長
- 三 各学部の教務（学務）委員会から選出された教員 各 1 名
- 四 教学マネジメントセンター長（以下「センター長」という。）又は教学マネジメントセンター副センター長（以下「副センター長」という。）
- 五 教学マネジメントセンター専任教員のうち、センター長が指名する者
- 六 地域協創教育センターから選出された教員 1 名
- 七 学務課長
- 八 その他委員長が必要と認めた者

(委員長)

第5条 専門委員会に委員長を置き、センター長又は副センター長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する者が、その職務を代理する。

(会議)

第6条 専門委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。

2 専門委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 専門委員会が必要と認めたときは、委員以外の者を委員会に出席させ、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 専門委員会の庶務は、学務課において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、令和2年10月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和7年4月1日から施行する。

# 岩手大学における数理データサイエンス・AI教育（リテラシーレベル）の概要

## 〇目的

「AI戦略2019（統合イノベーション戦略推進会議決定）」に基づき、「**文理を問わず、すべての大学生が、初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得する**」という国家戦略の達成に向けて、**全学部学生を対象とした、リテラシーレベルの数理・データサイエンス・AI教育プログラムを実施（R3年度から開始）**

## 〇身に付けることのできる能力

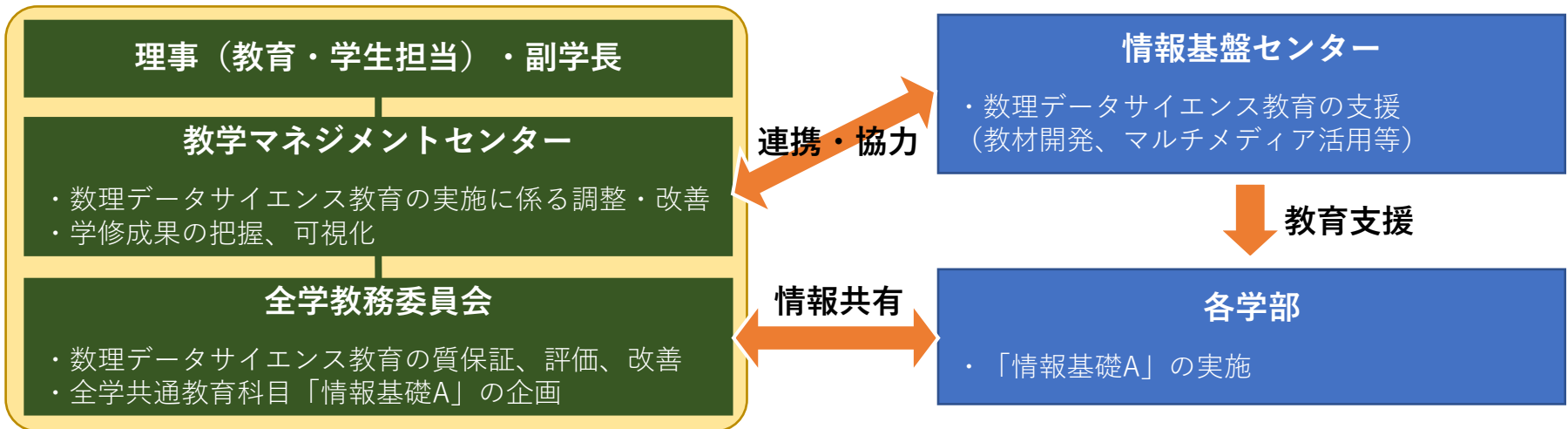
1. 第4次産業革命、Society5.0 データ駆動型社会といった社会変化に数理・データサイエンス・AIが深く寄与していること、また、実際の日常生活においても密接に関係していることについて説明できる。
2. 数理・データサイエンス・AIが対象とするデータ活用領域は、実社会において広範囲にわたっており、各分野における知見との組み合わせにより価値が創出され、様々な課題解決に寄与していることを説明できる。
3. 社会で活用されている実データや実課題について、「データを読む、説明する、扱う」ための基本的な思考方法やICTの活用方法を習得できる。
4. 数理・データサイエンス・AIを活用する上での様々な留意事項（ELSI、個人情報、セキュリティ、データ倫理等）の重要性を理解し、説明できる。

## 〇プログラム概要

- ・全学部学生が1年次前期に教養教育科目「**情報基礎A**」（全学必修科目2単位）の単位を取得する ※令和7年度より（数理・データサイエンス・AI教育の重要性に鑑み、令和3年度からその内容を充実させた内容とし、入学前に情報系の科目に苦手意識のある学生にも、より理解しやすい授業内容とする）

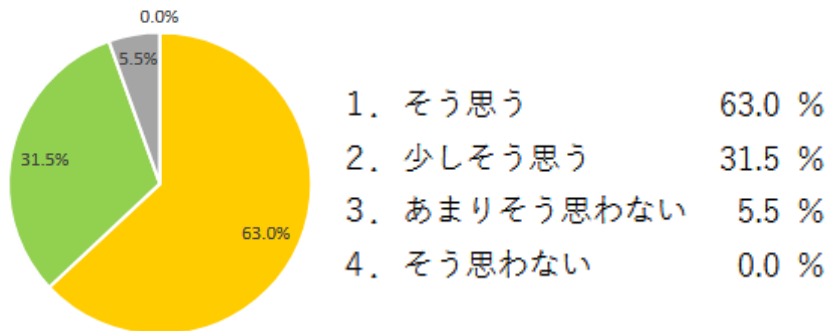
# 岩手大学における数理データサイエンス・AI教育（リテラシーレベル） の実施体制 ／ 学生からの評価（抜粋）

## ○プログラム実施体制



参考：2021年度『情報基礎』アンケート結果（満足度等に関する質問）より抜粋

Q この授業におけるあなたの学習は、満足できるものだと思いますか？



Q この授業で学んだことは、あなたにとって、今後役に立ちそうだと思いますか？

